

序 文

このたび、獣医衛生学教育研究協議会編集『動物衛生学』を上梓します。

6年制教育開始以降の家畜（獣医）衛生学の教科書は、1983年に家畜衛生学教育研修協議会編集『家畜衛生学概論』、1994年に『新版家畜衛生学概論』、2000年には、改正された獣医師国家試験ガイドラインに沿った『家畜衛生学』、2005年には、名称変更した新刊『獣医衛生学』、2012年に第二版が、その時代の飼養衛生管理に則した内容と諸問題・関連法規が取り上げられ編集・出版されて参りました。2015年には獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った『コアカリ動物衛生学』が出版されました。

申すまでもなく、20世紀後半から、我が国の畜産業の目覚ましい発展に伴う家畜家禽頭羽数の増加・飼養構造の変化と家畜疾病の多様化、貿易の拡大による海外の家畜・畜産物の流通の増大、さらには、21世紀を迎える直前での鳥インフルエンザ、牛海綿状脳症、口蹄疫など越境性感染症の日本国内での発生など、我が国の家畜生産基盤を揺るがす大きな問題を経験しました。新刊『動物衛生学』においても時代に即した実践的内容の教科書編集を心がけました。現在、人工知能やIoTによるスマート農業の技術開発が加速化し、畜産領域への活用も実用段階となっており、この教科書がそれに対応するものも近い将来の改定版となるでしょう。

さて、本書の特徴のひとつは、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムと獣医師国家試験ガイドラインを網羅した内容となっておりますが、コアとアドバンスの区分は色を変えて一目でわかるように工夫しました。また、本書で使用している「家畜伝染病」という用語は、「家畜伝染病予防法」で規程されている「家畜伝染病」を指し、家畜の感染症一般を示すものではないこともここで申し添えます。「家畜伝染性疾病の国内発生動向」をご執筆頂いた農林水産省消費・安全局動物衛生課 木下祐一先生のご逝去の報を完成前に受けました。関係者一同、心より哀悼の意を表します。最後に、企画段階からご参画いただきました全国獣医系大学の獣医衛生学教育担当の皆様と文永堂出版 松本晶氏に感謝申し上げます。本書が獣医学を学ぶ学生諸君や、獣医衛生領域・獣医療に携わる多くの方々にも活用され、ご助言・ご意見を賜れば幸いです。

平成30年3月21日（春分の日）

編集者代表 高井伸二